

## 評価結果に係る改善課題及び取組方針報告書

（平成24年度）

（法人名：社会福祉法人泉会 事業所名：世田谷区立岡本福祉作業ホーム）

1 改善課題	2 改善のための取組方針
<p><b>1、多機能事業所として、本園と分場で支援方針や記録の管理等の一体化を図ることが望まれます。</b></p> <p>利用者の支援に関する記録や会議記録など本園と分場それぞれの方法を使用している事が推測されます。以前は異なる事業所として運営されていた経緯は理解できますが、多機能事業所として一体化して運営している以上は、双方で検討し合い、事業所として統一した記録管理の方法を確立することが望まれます。さらに、利用者間で本園と分場が同一事業所であるとの感覚や一体感が希薄であると推測されます。行事や作業など連携を取り、協働できることを構築することに期待します。</p> <p><b>2、職員一人ひとりの能力向上に向けた「個人別育成計画の作成」が望まれます</b></p> <p>職員の質がそのまま利用者から見た事業所の評価と成り得るので、職員の質の向上は重要な課題として捉え、年間研修計画を策定し、事業運営に向けた事業所内外研修を行っています。しかし、職員一人ひとりのキャリアや能力に違いがあり、能力向上に対する考えを面談で把握し、人事評価の仕事基準書(アセスメント・モニタリング表)と教育制度との連動や研修後の成果の確認を行うことで、職員一人ひとりの能力向上に関する課題や目標を示し、職員一人ひとり質の向上に向けた「個人別育成計画の作成」が望まれます。</p> <p><b>3、職員の定着を図る、やる気の向上についての幅広い視点での要因分析が望まれます。</b></p> <p>事業法人内で、事業の特性を踏まえた適材適所の人員配置をするた</p>	<p>2013 年度事業計画に3つの課題を記述し、職員全員で共有しています。課題については、毎月1回開催しているマネジメント会議（施設長、本園・分場の課長、課長補佐）にて進捗管理を行ないます。</p> <p><b>1、多機能事業所として、本園と分場で支援方針や記録の管理等の一体化を図ることが望まれます。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画策定は、本園・分場の職員全体で振り返りを行った後、職種ごとにワーキンググループを立ち上げ支援方針を検討しながら進めます。</li> <li>・4月より新社会福祉法人会計基準に移行し、事務総務は本園を中心に一体的に作業を進めます。</li> <li>・行事等は、応援体制が出来ているので、お互いに声をかけながら協力して進めます。</li> <li>・記録管理は長い間それぞれのやり方で進めてきたので、問題点や課題を洗い出し改善します。</li> </ul> <p><b>2、職員一人ひとりの能力向上に向けた「個人別育成計画の作成」が望まれます</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人レベル改善していきます。研修台帳のフォーマット、研修の基準等はほぼ昨年度にまとまっているので、その作業を速やかに行い、事業所全体の研修計画と個人別育成計画に落とし込みます。</li> </ul>

めに人事異動を行っていますが、職員や利用者・家族等には、退職や人事異動が多く安定させてほしいとの意見もあり、人事マネジメントにおける適切な対応が望まれます。やる気と働きがいの取り組み課題として、個人別育成計画の必要性、職員のモチベーションの維持向上など、幅広い視点での要因分析が望まれます。個別面談を増やすなどで、職員の成長につながる要望や意見を聞き、管理職とのコミュニケーション機会を増やすことで、言いやすい職場環境作りへの取り組みが求められます。

### 3、職員の定着を図る、やる気の向上についての幅広い視点での要因分析が望まれます。

職員のやる気や働きがいは、職場をこうして行きたいという目指すものが共有化出来ていること、そして、目標達成のプロセスや結果に対して深く振り返ることで、やる気が向上したり働きがいを感じることができると考えます。目指すものとのズレがあると、モチベーションが低下し、離職にも繋がります。このズレは上司との関係、同僚との関係、利用者支援等様々な場面が出るので、ズレを把握し修正することが大切です。

具体的には次のように取り組み、要因分析を行い、日頃の対話を大切にし、声を掛け合える関係づくりに努めていきます。

- ・事業所目標を毎朝ミーティングで読み上げます。
- ・行動規範自己チェック表や虐待防止自己チェック表を活用し権利擁護についての取り組みを行う中で話す機会を作ります。
- ・第三者評価職員アンケートをもとにズレのある項目について分析をおこないます。
- ・モラールサーベイ・チェックを実施し、経営への信頼、上司への信頼、利用者満足、労働条件、職場生活満足等の把握を行います。

\* 1 評価結果の「全体の評価講評」の「さらなる改善が望まれる点」3点のタイトル項目を記入すること。

\* 2 課題改善のための取組方針を記入すること。